

ミャンマーのクーデターおよびデモの物流への影響

各種報道のとおり、ミャンマーでは国軍によるクーデターへのデモが続き、死傷者も発生している状況となっています。本号では、同国内の物流に与えている影響についてお伝えします。

1. デモの概況

国連の発表によれば、ミャンマーでは2月1日のクーデター以降、デモが継続しており、死者はこれまでに50人を超え、多数の負傷者が発生しています。弊社が現地エージェントから直接確認したところによれば、昨日3月4日時点では、市街の通りの一部では、バリケードが設置され警察との衝突で銃撃戦や略奪行為も見受けられる等、危険な状況のため外出は困難であるとの情報を得ており、状況が悪化していることが伺えます。

2. 物流への影響

国軍によるクーデターへのデモの影響で、実体として政府管理の主要港湾の稼働が停止していることなどから、物流の停滞が懸念されています。現時点で寄せられた情報は以下のとおりです。最新の状況については、各種報道も併せてご確認いただけますようお願い申し上げます。

- ・ 公式に稼働停止の発表はない一方で、港湾内のあらゆる施設・サービスが止まっている実態が確認されている。
- ・ 主な理由は、政府職員含む多くの港湾関係者が抗議活動に参加しており、実質稼働していないというもの。また、政府職員が軍によって不当に拘留されたとの情報もある。
- ・ 道路が塞がっていて物理的に往来が出来ない、といった事情もある。これは交通・港湾に限った話ではなく、政府関連のオフィスも稼働を停止している。
- ・ 荷動きもスローであり、通関エージェントの不在によりヤンゴン港(Myanmar Industrial Port=MIP)で貨物の滞留が生じたケースが実際に発生している。
- ・ こうした荷役機能の低下やコンテナターミナルのオペレーション処理能力低下を受け、一部船社ではミャンマー向け輸入貨物のブッキングを停止することを発表している。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが
本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

マリントピックスのバックナンバーはこちら



ご不明な点がございましたら弊社代理店、または営業店社員にご連絡くださいますようお願い申し上げます。